

区分別科目	透析管理関連		時間数 (法定)	12 (11)
特定行為名	(A) 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理			
担当指導者	福井 道彦 (医師) 自閑 昌彦 (医師) 川上 敦司 (医師)			
学ぶべき事項	(共通) 透析管理関連の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造</li> <li>血液透析及び血液透析濾過の方法の選択と適応</li> <li>血液透析及び血液透析濾過器の操作及び管理の方法</li> </ol>		
	(A) 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性血液浄化療法に関する局所解剖</li> <li>急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理</li> <li>急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>急性血液浄化療法における透析の目的</li> <li>急性血液浄化療法に係る透析の適応と禁忌</li> <li>急性血液浄化療法に伴うリスク (有害事象とその対策等)</li> </ol>		
研修概要	(共通) 透析管理関連の基礎知識	透析の必要性、目的、方法を理解し、かつ安全に透析管理を実践するための基本的な知識を養う。		
	(A) 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	医師の指示の下、手順書により、身体所見 (血圧、体重の変化、心電図モニター所見等)、検査結果 (血液ガス分析、血中尿素窒素 (BUN)、カリウム値等) 及び循環動態等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、急性急性血液浄化療法における血液透析器又は、血液濾過装置の操作及び管理を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>医師の指示の下、手順書により、身体所見 (血圧、体重の変化、心電図モニター所見等)、検査結果 (血液ガス分析、血中尿素窒素 (BUN)、カリウム値等) 及び循環動態等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、急性急性血液浄化療法における血液透析器又は、血液濾過装置の操作及び管理が行えるようになる。</li> <li>手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。</li> <li>医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。</li> <li>実施、報告の一連の流れが適切に行える。</li> </ol>			
評価方法	講義 : e ラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習 : ペーパーシミュレーションによるグループワークを評価表に基づいて評価			
	実習 : 評価表 (Mini-CEX) を用いた観察評価			
	試験 : e ラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義 (9 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分		
	演習 (2 時間)	視聴時間 (イントロ) 5 分 + グループワーク 45 分 + 視聴時間 (解説) 10 分 ※e ラーニング教材を活用して講義室で行う		
	実習	実習は指導者の下、宇治徳洲会病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める		
	試験 (1 時間)	科目修了試験 (筆記試験) 1 時間 (共通) 透析管理関連の基礎知識 0.5 時間 (A) 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理 0.5 時間		

## 授業計画

科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学べき事項	担当指導者	
透析管理 関連	第1回	講義	放送	(共通) 透析管理関連の基礎知識	1. 血液透析器及び血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造	福井 道彦 自閑 昌彦 川上 敦司
	第2回				2. 血液透析及び血液透析濾過の方法の選択と適応	
	第3回				3. 血液透析及び血液透析濾過器の操作及び管理の方法	
	第4回			(A) 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理	1. 急性血液浄化療法に関する局所解剖	
	第5回				2. 急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理	
	第6回				3. 急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
	第7回				4. 急性血液浄化療法における透析の目的	
	第8回				5. 急性血液浄化療法に係る透析の適応と禁忌	
	第9回				6. 急性血液浄化療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
	第10回	演習	面接	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理の判断基準（ペーパーシミュレーション）①		
	第11回			急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理の判断基準（ペーパーシミュレーション）② 手順書作成		
			実習	面接	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理（見学）	
※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う						
第12回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）			

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	<p>* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。</p> <p>* 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。</p> <p>* 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。</p> <p>* 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。</p> <p>* 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。</p> <p>* 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。</p> <p>* 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時的講義を行う。講義の場所は、講義室とする。</p>